～防除室だより vol.13～

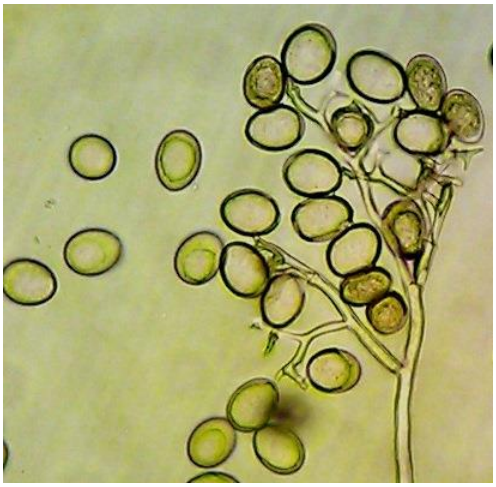
病害虫防除室
2017 年 1 月 31 日

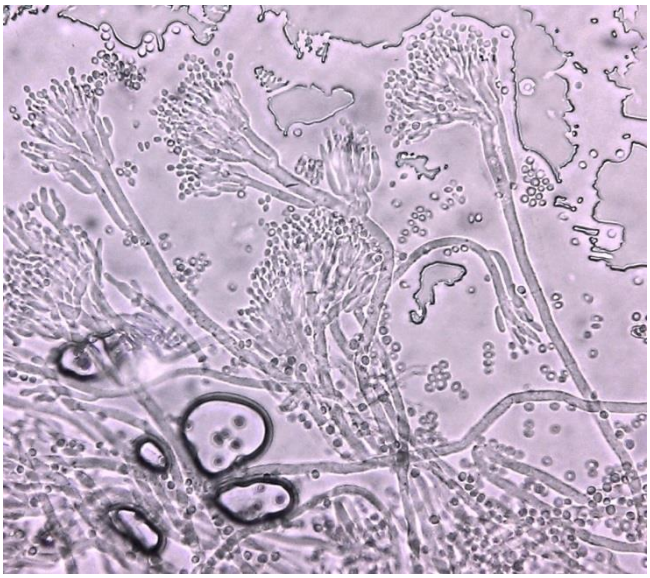
病害診断の現場から―低温で発生する病害－

作物の病気は梅雨時など中高温・多湿条件で発生が多いイメージがありますが、低温時に発生しやすいものもあります。最近の診断の中から、低温条件で発生しやすい病害を紹介します。

１．ホウレンソウべと病

葉に発生します。葉の表面は退緑色、裏面にねずみ色～灰紫色のカビを生じます。このカビは病原菌ペロノスポラ・エフューザの分生子です。分生子の形成適温は７～１５℃、発芽適温は８～１０℃です。晩秋～早春に発病が多くなります。



２．サツマイモ青かび病

塊根に発生します。塊根表面に褐色～黒褐色の陥没病斑を生じ、のちに内部まで腐敗して、表面には青緑色のカビを生じます。このカビは病原菌ペニシリウム・エクスパンスムの分生子です。ペニシリはギリシャ語の「ほうき」の意で、ほうき状に分枝した先に、単細胞球形の分生子が連鎖して形成されます。発病適温は５～１０℃であり、冬期貯蔵中の腐敗の原因となります。